

「神の選び」

～あなたは神の摂理によって選ばれた～

ローマ書9章

私達の願いは外的な事が多いものです。深い穴に落ちた子どもがいました。母親はこんな深い穴に落ちてと言ったが、子どもは自分が落ちたのは高い所だと言いました。目線が違うのです。上から見るのと、下から見るのでは別の様に見えるこの様な事が人生にはよくあります。今は誰からも制限されず行動できる時代です。昔のクリスチャンはそうではありませんでした。私達は自分たちがどれ程の恵みの中にあるか歴史から学び知らなければなりません。今自由であるという事は責任が大きいという事です。自由とは思いう様に行動できる事ではありません。選ばれて教会に導かれ人生が変えられた私が、どのように生きていくのかを教会に来て知り、その恵みに生きる事も出来るし、元に戻る事も出来るという事です。あなたが選べるという事です。

■ 選民の救い～私達がどう歩むのか～ (1～33節)

神様は選民であるイスラエルの民だけが救われるように計画されていたが、イスラエルの民は選ばれたのに離れていきました。理由は信仰より行いによる義を求めて生きていた為にイエス様が来た時に救い主だとわからなかった為です。これが人間と神様の目線の違いです。

■パウロの悲しみ (1～3節)

パウロはユダヤ人でパリサイ人のリーダーでしたが、キリストに出会い生き方を変えた人です。ユダヤ人から見たら裏切り者です。パウロは救われた後、異邦人に向かって宣教しましたが、自分がたとえ死んでも同胞の民に福音を伝えたいと言っており、同胞の民が救いを受け取っていない事をとて悲しんでいます。

■イスラエル人に与えられた7つの特権 (4, 5節)

- ①子とされる…クリスチャンの選びは個人だが、イスラエス人は民族全体が神の子として選ばれている
- ②栄光…悲惨で残酷な苦しみの中を通るが、主が共におられるので、いつも守られている。そして神様に会える場所である神殿が与えられ、最終的にメシヤであるキリストがいた。
- ③契約…アブラハム、土地、ダビデ、新しい契約が与えられた
- ④律法を与えられる事…人間が法律になったにも関わらず、神の律法が与えられた特権がある。
- ⑤礼拝…礼拝できる恵みが与えられた。
- ⑥約束 (複数形) …生誕、再臨、千年王国の約束がある。
- ⑦先祖たち (族長達) …先祖達に働いた神が働いている。イスラエル人はこの特権を持っているから救われるのではなく、イエスを信じて救われるのに、背いたので、その恵みが私達に来ているのです。キリストに対する信頼がなければこれらの特権も無意味となるのです。

■神の選びとは何なのか

アブラハムの二人の息子 (7～9節) イサクが選ばれた。もう一人は荒野に出された。イサクの二人の息子 (10～13節) ヤコブが選ばれた。生まれた時に決まっていた。

- ①前半 (14節) 質問
「それではどういう事になりますか。神に不正があるのですか」
- ②後半 (19～29節) 回答
「するとあなたはこう言うでしょう『なのになぜ神は人を責められるのですか。誰が神の計画に逆らう事が出来ましょう』」
イザヤ55:8～9
「私の思いはあなた方の思いとは異なり、私の道はあなた方の道と異なるからだ。主の御告げ。天が地より高いように私の道はあなた方の道よりも高く、私の思いはあなた方の思いよりも高い。」

結論

私達は選ばれたという事。大切な事は神様が創世の時代から計画に入れて選んできたという事。人間にはそれはわからないので、選ばれた人が神様に出会う事が出来ないという様な事がないように私達は伝えていかないといけない。人は善悪で物を判断するので、不公平という観点から判断して神様の為される事が不正に感じてしまう。でも神のなさる事が正義であり、私達の思う事が正義はないという事。聖書は私達が納得する事を求めている。私達と神様の目線が違う事を理解する事が大切。

■目線を変える

台風で東北地方のリンゴに大きな被害が出て、9割のリンゴが木から落ちて駄目になったが、残りの1割のリンゴを「落ちないリンゴ」として高値で売って、大損害の中で大儲けした人がいました。この人は他の人と目線が違っていたのです。問題が起きた時の私達の反応には3つある。①混乱してしまう

②なかった事にして蓋をする。関わらない。③全く違う見方をして新たな道を歩もうとする。これがクリスチャンの歩みであり9章の恵みです。

私達はルールが好きで、問題があると納得したいので理由つけて自己満足して、自分のせいではないと言いたいのです。これが罪の根源です。あなた自身が神様の前に出て、ズレたら戻る事が大切なのに、これをしようとしないう事が問題なのです。携帯電話、ラインの問題は本来消えてしまうはずの会話が残るので探れてしまうのが問題です。忘れる事が出来るから人間は病気になるのに、ラインによって、過去の会話を覚えて自分ではなく、相手が悪かった事を捜しているのです。これこそが告発者 = 悪魔がやる事です。これだと自分を正当化して罪を犯し続けていってしまいます。与えられた状態と今の自分のギャップが分からないと神の選びがわかりません。豊かである事が幸せな社会は常に比較があります。車の車種や寝台列車の部屋のランクの様に差をつける事で自分の存在価値を見出しているのです。そうやって生きてくると、神様の選びを見てギャップを感じます。私達は聖書を通して、歴史を通してキリスト者とそうでない人の生き方の違いを見て、その生き様から学ばなければなりません。

■自分が選ばれた事を知る

選民ではない私達を選ぶ事によって、選民であるイスラエルの為にとりなす事を神様は願われています。私達は選ばれた者としてどう自分が生きるかが問われています。摂理の中で選ばれた信仰による義です。地上では全て理解は出来ない事です。どうして選ばれて救われたのかはわかりません。この選びは契約です。この契約を無効にする事をしてはいけない限り有効です。例えばお金を払えば家を買う事ができます。買う時に生き方は問われません。私の側の条件は関係なく、契約はお金が払われたかどうかだけです。私達はイエス様が代価を払って下さり買い取られたのです。早くから働いた人も最後の人も同じ賃金だと言われました。立派だから選ばれた訳ではない事を信じる事が信仰です。あなたは選びに応じて生きていますか？

■大切なのは選ばれた私達がどう生きるか

与えられた時間をどう使っているかと問われています。祈れる時間に自分の過去を振り返り、自分を責めて人を責めているならその時間は呪いの時間です。憎んでその人の事に心を向けているならその時間は、ずっとキリストを十字架にもう一度かけているのです。与えられた時間を使って解決しないといけない壊れた関係を回復する事こそすべき事です。大人になると労働しないといけないので、子ども達に与えられている時間はとても大切です。責任のない子ども時代にすることは義務を果たす事、神様の召しを捜す事です。大人の義務は子ども達にその義務を果たさせる事です。読書は第三者の意見や考えを聞く事になるので良いですが、携帯やゲームは考える時間を奪うので危険です。やる気がなくなりイライラしてきます。そうさせる目的が携帯やゲームにはあります。私達は見えない世界の悪は意識しますが、衣食住など日常で過ごす事の中にある悪を排除する事をしています。例えばファーストフードは、又食べたいと思う様に作られているので、食べるのと体がもっと求める様になります。私達は悪だと知っていながら戦っていない事が多くあります。ルールによってパリサイ人がどう脱線したかを知らなければいけません。人間のルールではないのです。ルールに反するから躓くのです。何かをしているから必要とされているという思いは不要です。奉仕の中心は礼拝です。自分の考えとは全く違う、自分の考えが無にされる御言葉が語られるのが礼拝です。人の言葉でメッセージを聞かないで下さい。沢山奉仕すれば、何か良い事をすれば救われるのではなく、信仰によって救われているのです。信仰によって、どんな中にある事も喜ぶ事が出来るので、その結果あなたを通して救われる人が起きますのです。全てのライフスタイルがイエス様を伝える為であれば、何をしても栄える様になります。でも、もし、誰かが悪いと言って生きるなら、たとえ選ばれても救いを無にしてしまいます。選ばれたのに無にしないで下さい。神様に忠誠を尽くして愛して行って下さい。

(要約者:日名 陽子)

(2019年9月1日)